

## 27年1月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 12月20日～ 27年1月10日

## 2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
1月分の回答企業数は8社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## 素材生産動向

品目		27/1月	2月	3月
伐採動向	スギ	△ 21.4	△ 21.4	△ 28.6
	ヒノキ	△ 20.0	△ 10.0	△ 20.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	△ 50.0	50.0	50.0
出荷・販売動向	スギ	△ 21.4	△ 21.4	△ 28.6
	ヒノキ	△ 30.0	△ 10.0	△ 20.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
手持立木在庫動向	スギ	△ 12.5	△ 37.5	△ 25.0
	ヒノキ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0

・スギ、ヒノキ及びカラマツの伐採は3ヵ月連続して減少、エゾ・トドは1月は減少、2月、3月は増加。

・スギ、ヒノキ及びカラマツの出荷・販売は3ヵ月連続して減少、エゾ・トドは3ヵ月連続して横ばい。

・スギ、ヒノキ、カラマツ及びエゾ・トドの立木在庫は3ヵ月連続して減少。

## モニターからのコメント

## (伐採動向)

・トドマツ間伐のみだが、当月は正月休みでやや減少する。2月、3月は雪等で休みにならないければやや増加の見込み。  
・前月に引き続きカラマツ、スギ伐採控えめ。  
・安定生産に入る。  
・スギ、ヒノキで間伐40%、主伐60%。  
・間伐100%。

## (出材・販売動向)

・トドマツ一般材・原料材とも工場在庫に不足感あり、運材車の手配つくと順調に販売できる。合板材は納入制限なくなり動き始めている。  
・出材調整なし。  
・スギ、ヒノキ共に横ばい傾向。  
・積雪で搬出減。

## (手持ち立木在庫)

・トドマツは在庫余裕あり、条件の良い物件があれば購入する。  
・スギ、ヒノキ共に立木買入れは控えめ。  
・3月に在庫が増える予定。